

変形労働制ではなく、せんせいふやそう!

止めよう! 変形労働制 25

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.25

全北海道教職員組合

2019. 11. 26

教員の欠員、教員採用試験の受験者数の減少

学校が「ブラック」だという認識が広がり、 教員の確保もままならない危機的な状況に

●担任の先生がいらない! 「教育に穴が空く」問題

全国の学校現場では教員が足りない状況が常態化しています。北海道(札幌市を除く)でも、状況は一向に改善されず、大量の欠員が生じています。中には、1つの小学校で3名もの欠員が生じた小学校もあります。その欠員の穴埋めは他の教員が行うため、学校の超過勤務にますます拍車がかかっています。

これほどまでに大量の教員未配置が生じているのは、学校が「ブラック職場」と言われる過酷な長時間労働の実態についての認識が広がったことで、教員のなり手がなくなったことが根本的な原因です。

北海道の「教育に穴が空く」(教員未配置)の状況

2018	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	75	48	45	54	75	75	75	86	94
2019	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
	※	51	45	58	76	83	75		

※2019年1月~4月は、道教委より詳細な情報提供なし



●今年の小学校教員採用試験受験者数は、去年の合格者数を下回る

教員採用試験の受験者数も、大幅に減少を続けています。昨年度、道教委は小学校の教員採用試験で、615名(札幌市を除く)を合格者として登録しました。倍率は1.2倍と、全国最低でした。

そして、今年は、小学校の教員採用試験を受験した人の数が594名と、去年の合格者数にも届いていません。ただでさえ、大量の教員未配置が広がる中、もはや、教員の確保もままならない危機的な状況に陥っています。



●根本的な解決策は、超過勤務を覆い隠すことではなく、人を増やし仕事を減らすこと

文科省や道教委は、なぜ教員志望者が激減しているのか、そのことを真剣に考え、対策を講じるべきです。大量の教員未配置が常態化している現状は、教育の機会均等を謳った憲法にも反するものです。子どもの教育のためにも、教員の確保は、緊急の課題です。

教員が敬遠される原因となっている過酷な長時間労働が直ちに是正されなければ、教員の未配置は解消できません。それは、教員に変形労働を導入することで超過勤務の実態を覆い隠すことではなく、教員を大幅に増やすこと、業務を抜本的に削減すること以外にありません。

